

アジア14都市の人気スポーツ

- 「サッカー」はアジア14都市中10都市で“好きなスポーツ”の第1位。
インドでは「クリケット」が断トツ人気。
- “普段やっているスポーツ”では「ウォーキング/散歩」「ジョギング」が上位に。
「バドミントン」「サイクリング」「水泳」を楽しむ人も多い。
- 好きなスポーツの大会を協賛・支援している企業は「イメージが良くなる」。

博報堂では、グローバル市場でのマーケティング戦略に活用するためのオリジナル生活者調査『Global HABIT(グローバルハビット)』を2000年より毎年、アジアと欧米の主要34都市で中・上位収入層を対象に実施しています。

今年は、最新(2011年実施)のGlobal HABIT調査のデータをもとに様々な角度から分析を行い、グローバル市場での可能性に繋がるヒントを全10回シリーズでご紹介しています。

第3回レポートでは、アジア各都市の生活者の好きなスポーツ、普段やっているスポーツなどについて分析した結果をご報告いたします。

(14都市) 北京、上海、広州、ソウル、台北、香港、バンコク、クアラルンプール、マニラ、ホーチミンシティ、ジャカルタ、シンガポール、デリー、ムンバイ

※参考:モスクワ、フランクフルト、ニューヨーク、サンパウロ

1. アジア14都市中10都市で、「サッカー」は好きなスポーツのトップの座を占める

アジアでは「サッカー」の人气が非常に高く、14都市中10都市で観たりするのが好きなスポーツの第1位。また、各都市におけるトップ5を見てみると14都市中13都市でランクインしている。

サッカー以外では、半数以上の都市で、「バドミントン」、「水泳」、「バスケットボール」、「テニス」がトップ5に入っている。

「クリケット」はインド2都市で圧倒的な人气があり、「卓球」は中国3都市でトップ5に入り、「野球」は台北で1位、ソウルで2位となるなど、都市による好きなスポーツの違いが見られる。

2. 普段やっているスポーツは「ウォーキング/散歩」「ジョギング」といった手軽に出来るもの

普段やっているスポーツは、「ウォーキング/散歩」が14都市中12都市でトップ5に入り、うち6都市で1位。また、「ジョギング」も12都市でトップ5に入っている。特に、「ウォーキング/散歩」は2006年と比較すると、上位にあがる都市の拡大(面の拡大)、実施している人の割合の増加(層の厚みの拡大)の両面からアジア各都市への浸透が見てとれる。

また、「バドミントン」もアジアでは人气があり、11都市でトップ5入りし、広州では1位となっている。好きなスポーツでも10都市でトップ5に入っていることから、「バドミントン」は自分でやる、観る両面で人気のスポーツといえるようだ。

その他、「サイクリング」「水泳」も普段やっているスポーツとして、アジア各都市で人气が高い。

3. 生活者の「スポーツ参加率」が高い都市では、性・年代による差が少ない

普段スポーツに取り組んでいる人の割合が50%を超えているのは、広州、北京、ソウル、ホーチミンシティ、台北、上海の6都市。中でも、広州、北京、ホーチミンシティ、上海では、いずれの性・年代でもスポーツ参加率が高いのが特徴である。

スポーツ参加率が50%を下回る都市では、女性や40代、50代の割合が総じて低い結果となっている。スポーツ人口の底上げには、女性や40代、50代といった層を取り込むことが重要といえそうだ。

4. 好きなスポーツの大会を協賛・支援している企業には好印象

手軽に出来るスポーツが浸透するなど、アジア生活者が色々なスポーツに親しみを持つようになってきていると考えられる。その結果として、自分の好きなスポーツの大会を協賛・支援している企業に対しては、14都市全てで半数以上の生活者が、その企業のイメージが良くなる、活発さを感じる、地域や社会に貢献していると感じるといった良い印象を持っている。アジア生活者と企業の距離を近づける有効なコンテンツとして、スポーツの活用を広げていくべきではないだろうか。

1. 好きなスポーツ

(「観たりするのが好きなスポーツ」について質問:複数回答)

- **【全体】** 「サッカー」はアジア14都市中10都市(香港、ソウル、シンガポール、クアラルンプール、バンコク、ジャカルタ、ホーチミンシティ、上海、北京、広州)で第1位。中でもシンガポール、バンコク、ジャカルタ、ホーチミンシティでは第2位の種目を20ポイント以上引き離す圧倒的な人気。計13都市でトップ5にランクインしている。
- 「バドミントン」「水泳」「バスケットボール」「テニス」も、半数以上の都市でトップ5に入っている人気のスポーツ。
- **【都市別】** いくつかの都市で特徴が見られる。デリー、ムンバイのインド2都市は「クリケット」が各々74%、90%という圧倒的な数字を獲得しており、他のスポーツを大きく引き離している。特にデリーでは他のスポーツはいずれも一桁台の数字となっており、「クリケット」が唯一存在感のあるスポーツといえる。
- 上海、北京、広州の中国3都市では、共通して「サッカー」「バスケットボール」「卓球」「バドミントン」がトップ5入り。特に「卓球」の人気の高さが他国の都市との違いとなっている。
- 台北とメトロマニラは、他都市に比べ「サッカー」の人気は低い。台北では「野球」と「バスケットボール」(50%のスコアで拮抗)、メトロマニラでは「バスケットボール」(74%)「ボクシング」(62%)の各2つのスポーツが、他を引き離して人気を得ている。
- 「野球」がトップ5入りしているのは台北とソウルのみ。(アジア以外ではニューヨーク)

(参考) 東京の「好きなスポーツ」 1位:サッカー 2位:野球 3位:フィギュアスケート 4位:テニス 5位:バレーボール(日本国内で実施しているHABIT調査2011より)

好きなスポーツ <トップ5> Q:どのようなスポーツを観たりするのが好きですか。(複数回答) (%)

	1.		2.		3.		4.		5.	
香港	サッカー	47.0	水泳	38.3	バスケットボール	33.6	バドミントン	26.8	テニス	25.1
台北	野球	50.2	バスケットボール	49.4	フィギュアスケート	25.6	テニス	23.6	水泳	23.4
ソウル	サッカー	65.4	野球	49.8	フィギュアスケート	28.7	水泳	21.9	バスケットボール	21.7
シンガポール	サッカー	36.9	水泳	12.4	バドミントン	10.4	バスケットボール	8.1	テニス	7.0
クアラルンプール	サッカー	43.2	バドミントン	33.7	水泳	4.8	バスケットボール	3.2	モータースポーツ	3.0
バンコク	サッカー	56.1	ボクシング	24.7	テニス	16.1	モータースポーツ	14.8	水泳	13.7
メトロマニラ	バスケットボール	74.4	ボクシング	62.0	バレーボール	22.9	サッカー	17.9	水泳	17.2
ジャカルタ	サッカー	55.4	バドミントン	25.2	モータースポーツ	9.3	ボクシング	9.0	バレーボール	5.2
ホーチミンシティ	サッカー	46.1	水泳	10.1	バドミントン	9.7	テニス	6.9	ボクシング	5.1
デリー	クリケット	73.9	サッカー	6.1	バドミントン	5.7	テニス	3.7	フィールドホッケー	2.2
ムンバイ	クリケット	89.7	サッカー	20.6	バドミントン	10.8	テニス	9.8	ボクシング	4.4
上海	サッカー	51.6	バスケットボール	46.7	水泳	32.3	卓球	32.0	バドミントン	24.1
北京	サッカー	55.8	卓球	43.2	バスケットボール	35.4	バドミントン	32.8	バレーボール	31.7
広州	サッカー	49.9	バドミントン	46.7	バスケットボール	37.4	卓球	36.5	水泳	31.8

(参考)

モスクワ	サッカー	43.7	アイスホッケー	23.3	フィギュアスケート	21.3	ボクシング	16.9	テニス	13.3
サンパウロ(2010)	サッカー	72.9	バレーボール	39.3	モータースポーツ	24.0	バスケットボール	17.2	水泳	15.6
ニューヨーク(2010)	野球	53.4	バスケットボール	34.1	ボクシング	18.3	サッカー	18.1	ゴルフ	18.1
フランクフルト(2010)	サッカー	55.0	モータースポーツ	18.4	テニス	12.8	ボクシング	12.0	陸上	9.8

アジア14都市の好きなスポーツ<トップ5>を集計 (都市数)

サッカー	13	ボクシング	5	野球	2
水泳	10	卓球	3	フィギュアスケート	2
バドミントン	10	バレーボール	3	フィールドホッケー	1
バスケットボール	9	モータースポーツ	3		
テニス	7	クリケット	2		

2. 普段やっているスポーツ

(「普段よくやっている、趣味であるスポーツ」について質問:複数回答)

- **【全体】** 「ウォーキング/散歩」がアジア 14都市中12都市でトップ5に入り、うち6都市で1位となっている。2006年時点でも7都市でトップ5入りしていたが、2011年は12都市にまで拡大した。「ジョギング」はアジア14都市中12都市でトップ5入り、クアラルンプールでは1位。「ジョギング」は2006年時点で既に11都市でトップ5入りしており、その人気を維持している。「ウォーキング/散歩」や「ジョギング」といった手軽にできるスポーツは、今後アジア各都市でさらに活発になってくることが見込めそうだ。
- その他、「バドミントン」「サイクリング」「水泳」もアジアの都市では人気の高いスポーツである。特に「バドミントン」は11都市でトップ5入りし、広州では1位となっている。「好きなスポーツ」(p2)でも10都市でトップ5に入っており、観る・やる両面で人気のスポーツといえるようだ。
- **【都市別】** ソウル、台北では「登山・ハイキング」が1位。両都市とも20%程度の人が登山を楽しんでいる。インドでは、「好きなスポーツ」で断トツ1位だった「クリケット」が、デリー、ムンバイとも上位にあげられており、国技としての面目を保っている。

(参考) ニューヨークでは「ジム/エアロビクス」がトップで、エアロビクス流行の発信地らしい結果となっている。フランクフルト、モスクワでも「ジム/エアロビクス」はトップ5入りしているが、アジア圏ではトップ5入りしている国は少ない。ジムに通って健康作りという動きはアジアではまだこれからのようである。

(参考) 東京の「最近1年間にやったスポーツ」 1位:ウォーキング 2位:水泳 3位:ボウリング 4位:ジョギング 5位:サイクリング(HABIT調査2011より)

普段やっているスポーツ<トップ5> Q:あなたが普段よくやっていること、趣味としてあてはまるものは何ですか。(複数回答)

※スポーツのみを抽出(選択肢:27項目)(%)

	1.		2.		3.		4.		5.	
香港	水泳	17.0	ジョギング	11.4	バドミントン	9.3	バスケットボール	8.6	サッカー	7.9
台北	登山/ハイキング	19.3	水泳	13.8	サイクリング	13.6	バスケットボール	13.1	ウォーキング/散歩	12.0
ソウル	登山/ハイキング	20.7	ウォーキング/散歩	15.2	ジム/エアロビクス	13.1	サイクリング	8.7	水泳	7.4
シンガポール	ウォーキング/散歩	12.6	水泳	11.9	ジョギング	8.5	サイクリング	6.3	サッカー	5.7
クアラルンプール	ジョギング	12.4	ウォーキング/散歩	11.1	バドミントン	5.0	サッカー	5.0	ボウリング	0.9
バンコク	サッカー	10.6	サイクリング	10.1	水泳	6.7	ジョギング	6.3	バドミントン	4.9
メトロマニラ	バスケットボール	9.0	ウォーキング/散歩	2.1	ジョギング	1.7	バドミントン	1.4	サイクリング	1.3
ジャカルタ	ウォーキング/散歩	33.3	サッカー	10.0	ジョギング	5.1	バドミントン	4.3	サイクリング	3.0
ホーチミンシティ	ウォーキング/散歩	30.3	ジョギング	21.8	ジム/エアロビクス	9.3	サッカー	8.4	バドミントン	6.7
デリー	ウォーキング/散歩	25.6	クリケット	3.2	バドミントン	1.8	ジョギング	1.2	ジム/エアロビクス	1.1
ムンバイ	クリケット	9.7	ウォーキング/散歩	8.1	バドミントン	2.8	ジョギング	1.7	ヨガ/太極拳	1.1
上海	ウォーキング/散歩	18.2	サイクリング	15.2	ジョギング	12.5	水泳	11.1	バドミントン	10.1
北京	ウォーキング/散歩	27.8	水泳	17.7	バドミントン	17.1	ジョギング	16.6	サイクリング	16.4
広州	バドミントン	32.5	ウォーキング/散歩	26.8	ジョギング	14.3	水泳	13.8	サイクリング	12.7

(参考)

モスクワ	ウォーキング/散歩	41.7	水泳	16.3	ジム/エアロビクス	10.9	サイクリング	10.2	サッカー	9.3
サンパウロ(2010)	サッカー	13.8	ウォーキング/散歩	9.6	サイクリング	8.2	ジョギング	5.8	ソーシャルダンス	3.6
ニューヨーク(2010)	ジム/エアロビクス	30.5	水泳	30.3	ウォーキング/散歩	27.5	ボウリング	26.9	ソーシャルダンス	16.9
フランクフルト(2010)	ジョギング	28.8	ジム/エアロビクス	16.6	サッカー	13.0	サイクリング	8.6	水泳	6.6

アジア14都市の普段やっているスポーツ<トップ5>を集計

(都市数)

ウォーキング/散歩	12	サッカー	6	ボウリング	1
ジョギング	12	バスケットボール	3	ヨガ/太極拳	1
バドミントン	11	ジム/エアロビクス	3		
サイクリング	9	登山/ハイキング	2		
水泳	8	クリケット	2		

<参考資料>

(2006年) 普段やっているスポーツ<トップ5> ※調査対象者年齢:15~54歳

Q:あなたが普段よくやっていること、趣味としてあてはまるものは何ですか。(複数回答) *スポーツのみを抽出

(%)

	1.		2.		3.		4.		5.	
香港	水泳	19.9	バドミントン	13.8	サッカー	9.5	ウォーキング/散歩	8.4	バスケットボール	7.5
台北	登山/ハイキング	17.1	バスケットボール	15.5	水泳	15.0	ウォーキング/散歩	11.5	バドミントン	6.8
ソウル	登山/ハイキング	16.0	サッカー	8.9	ジョギング	5.5	ウォーキング/散歩	4.1	水泳	4.1
シンガポール	ジョギング	10.4	水泳	10.2	サッカー	6.2	サイクリング	5.6	バドミントン	5.2
クアラルンプール	ジョギング	8.3	サッカー	6.3	バドミントン	5.4	ウォーキング/散歩	2.4	サイクリング	2.2
バンコク	サッカー	6.0	バドミントン	3.4	サイクリング	2.6	水泳	1.8	ジョギング	1.1
メトロマニラ	バスケットボール	9.6	バドミントン	3.2	水泳	1.8	ジム/エアロビクス	1.8	バレーボール	1.6
ジャカルタ	サッカー	7.1	バドミントン	3.8	ジョギング	3.6	水泳	3.3	バスケットボール	1.5
ホーチミンシティ	ウォーキング/散歩	4.1	サッカー	3.3	水泳	2.7	バドミントン	1.4	ジョギング	0.8
デリー	ウォーキング/散歩	9.9	ジョギング	5.5	バドミントン	3.2	ジム/エアロビクス	2.1	ヨガ/太極拳	1.9
ムンバイ	ウォーキング/散歩	17.6	ジム/エアロビクス	8.9	ジョギング	8.5	ヨガ/太極拳	6.0	バドミントン	3.5
上海	サイクリング	20.1	バドミントン	7.2	ジョギング	6.6	水泳	5.8	バスケットボール	5.2
北京	サイクリング	14.2	バドミントン	11.2	水泳	10.4	ジョギング	5.5	サッカー	5.5
広州	サイクリング	18.2	バドミントン	16.5	ジョギング	11.1	水泳	10.6	登山/ハイキング	10.4

(2006年) アジア14都市の普段やっているスポーツ<トップ5>を集計 (都市数)

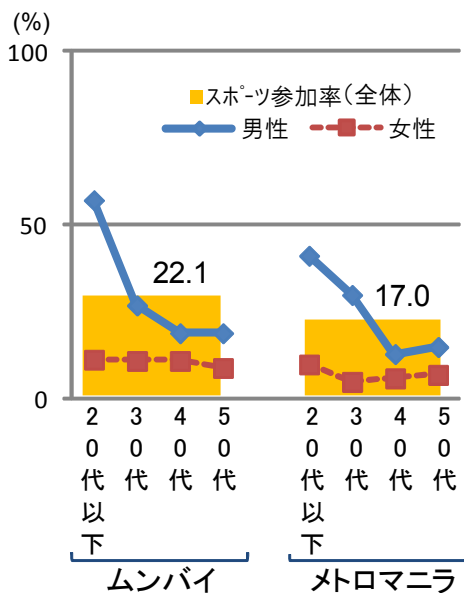
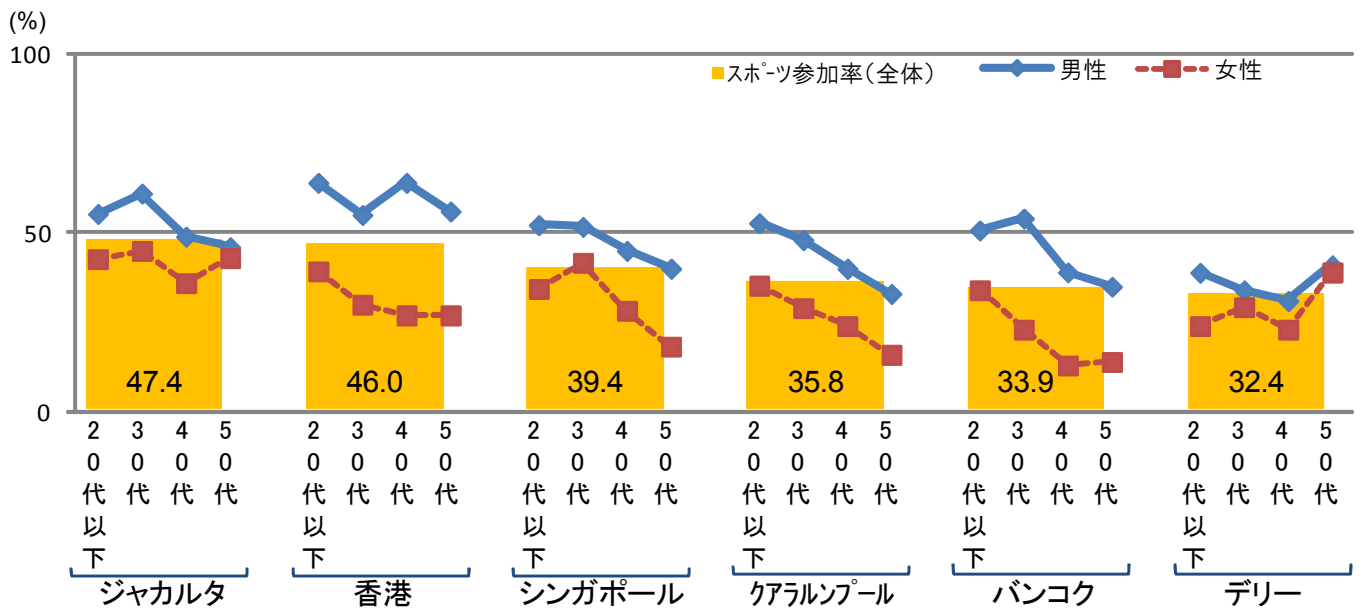
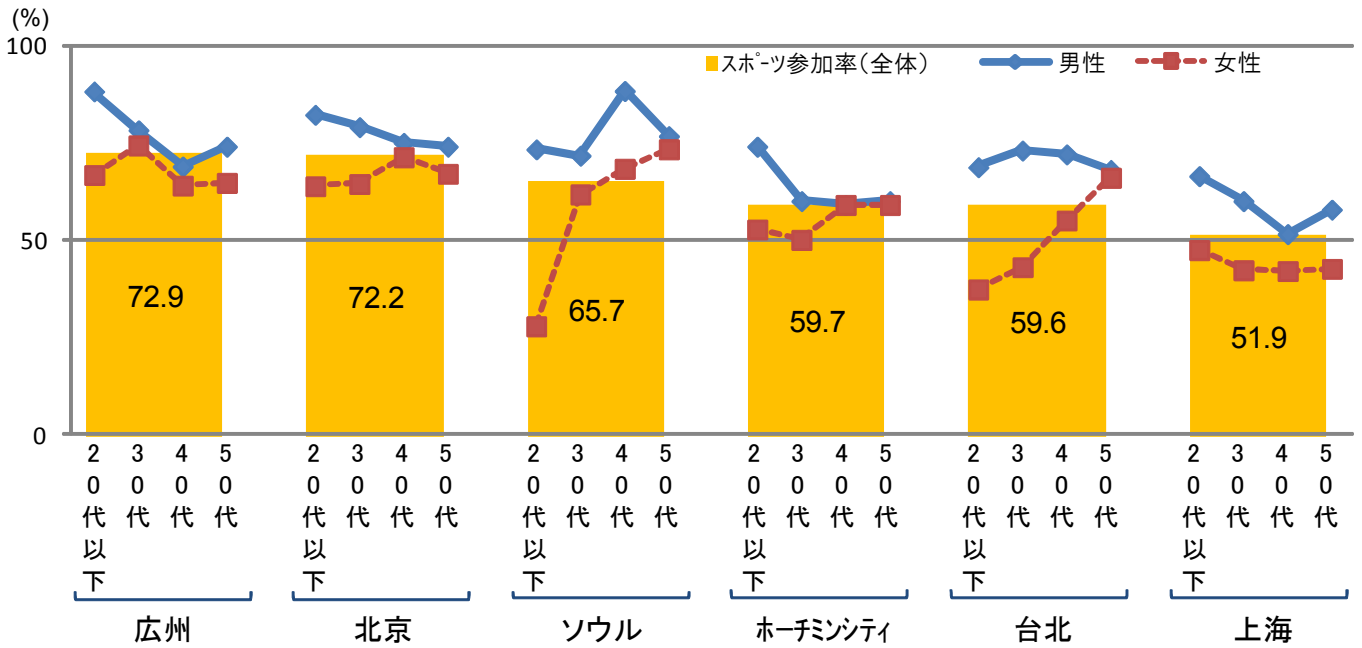
バドミントン	13	サイクリング	6	バレーボール	1
水泳	11	バスケットボール	5		
ジョギング	11	登山/ハイキング	3		
サッカー	8	ジム/エアロビクス	3		
ウォーキング/散歩	7	ヨガ/太極拳	2		

3. スポーツへの参加率

- 各都市ごとに、普段やっているスポーツ(27項目)の累計を「スポーツ参加率」として見てみると、50%を超えているのは6都市で、広州、北京、ソウルは60%超と高く、次いでホーチミンシティ、台北、上海の順となっている。
- 残る8都市はスポーツ参加率が50%に満たない状況(ジャカルタ、香港、シンガポール、クアラルンプール、バンコク、デリー、ムンバイ、メトロマニラ)で、中でも低いのはメトロマニラとムンバイで20%前後であった。
- 性・年代別に詳しく見てみると、スポーツ参加率が50%を超える都市では、男女ともに40代・50代も活発にスポーツをやっている状況がみとれる。特にソウル、ホーチミンシティ、台北では、40代・50代の女性が若年女性よりもスポーツをやっている率が顕著に高いのが特徴的である。
- 一方、スポーツ参加率が低い都市では、スポーツをやっているのは主に20代・30代の男性で、女性や、40代・50代といった層の参加率は低い傾向がみられる。スポーツ人口の底上げには、女性や40代・50代の層を巻き込むことが重要なポイントと言えらう。

各都市のスポーツ参加率

*スポーツ参加率＝普段やっているスポーツ(27項目)の累計

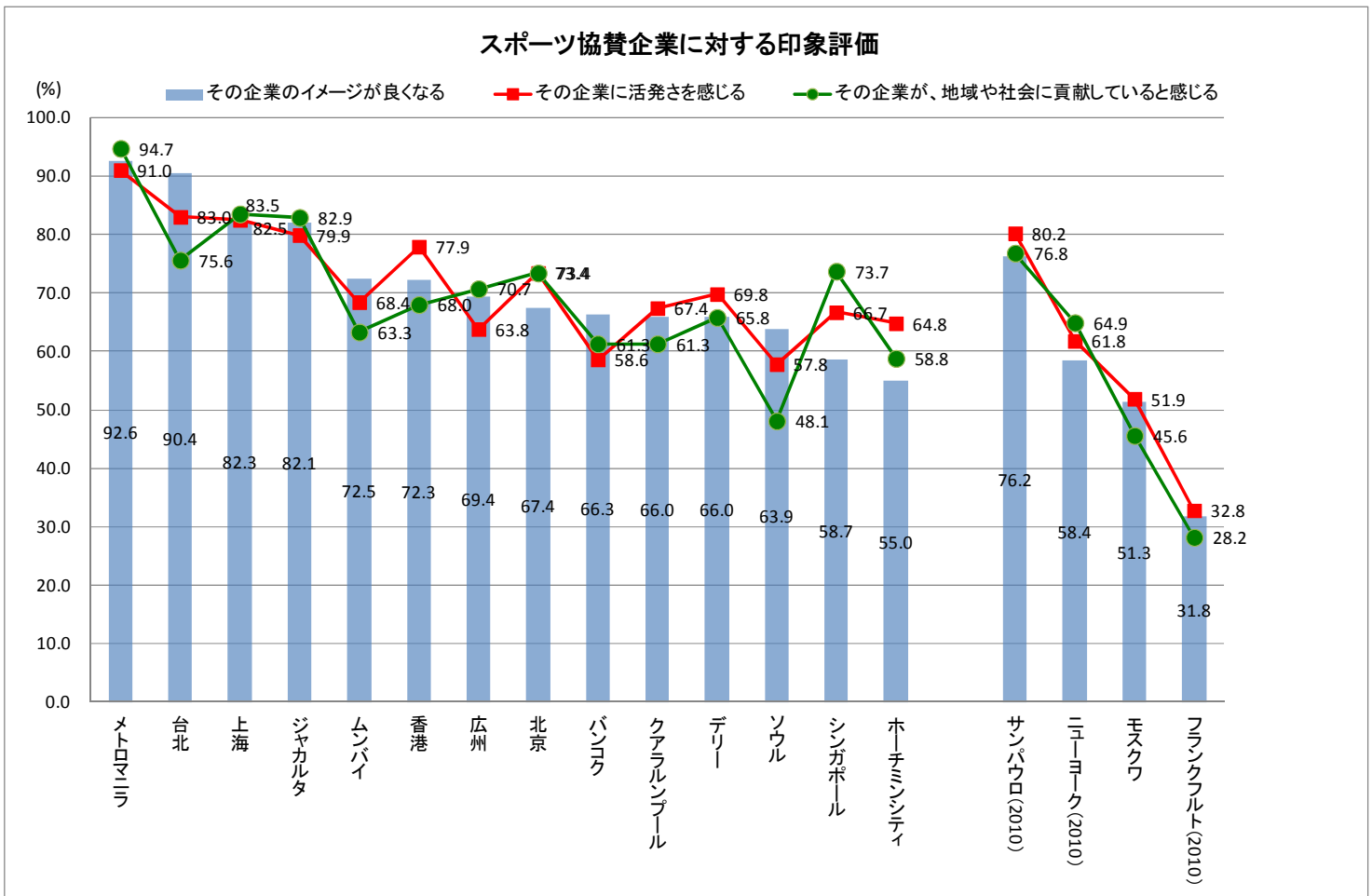


4. スポーツ協賛企業に対する印象評価

- 自分の好きなスポーツの大会を協賛・支援している企業に対しては、アジア14都市全てで5割以上の生活者が、「その企業のイメージが良くなる」と回答している。特に、メトロマニラ、台北、上海、ジャカルタでは80%以上と高い結果となっており、企業のイメージアップに貢献する可能性が大きいと言える。
- 「その企業に活発さを感じる」という印象は、14都市全てでほぼ60%以上となっている。スポーツやスポーツ選手が醸し出す躍動感などが企業活動の活発なイメージを助長する効果があると言えるだろう。
- 「その企業が、地域や社会に貢献していると感じる」という印象も14都市全てでほぼ50%を超える結果となっている。特にシンガポールでは「企業のイメージが良くなる」よりも15ポイント以上も高く、他の都市とは異なる傾向が見られる。

スポーツ協賛企業に対する印象評価

Q: もし、ある企業が自分の好きなスポーツの大会を協賛・支援していたら、その企業にどのような感じをもちますか。(各項目「はい」の回答)



<調査概要>

【調査都市】 18都市

中国(上海/北京/広州)、香港、台湾(台北)、タイ(バンコク)、韓国(ソウル)、シンガポール、マレーシア(クアラルンプール)、フィリピン(メロマニラ)、インドネシア(ジャカルタ)、ベトナム(ホーチミンシティ)、インド(デリー、ムンバイ)、ロシア(モスクワ)、アメリカ(ニューヨーク)、ドイツ(フランクフルト)、ブラジル(サンパウロ)

【調査対象】 15～59歳男女

【サンプル数】 13,951s(各都市500～900名)

【調査時期】 2011年5月下旬～8月上旬(*ニューヨーク、サンパウロ、フランクフルトは2010年調査データを使用)

博報堂のグローバル生活者調査

Global HABIT®

Global HABITは、2000年から世界の主要34都市で毎年実施している博報堂オリジナルの生活者調査のデータベースです。都市間での比較はもちろん、同一都市の時系列比較も可能です。Global HABIT調査では、「同一の生活者」(シングルソース)に、ライフスタイル、価値観からメディア接触、購入態度、様々なカテゴリーのブランド使用状況や意識を聞いています。そのため、ブランドユーザーはもちろん、意識レベルでのブランド支持者(購入意向者・好意者・ファン等)の分析が可能です。

<「Global HABIT 2011」調査概要>

調査都市: 中国(上海/北京/広州)、香港、台湾(台北)、タイ(バンコク)、韓国(ソウル)、シンガポール、マレーシア(クアラルンプール)、フィリピン(メロマニラ)、インドネシア(ジャカルタ)、ベトナム(ホーチミンシティ)、インド(デリー、ムンバイ)、ロシア(モスクワ)

*中国(大連/瀋陽/武漢/成都/杭州/寧波/西安/福州)、オーストラリア(シドニー)、ドイツ(フランクフルト及び周辺、ベルリン)、フランス(パリ)、イタリア(ミラノ)、スペイン(マドリッド)、アメリカ(ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴ)、イギリス(ロンドン)、ブラジル(サンパウロ)、は2010年以前に調査。

調査対象: 15～59才男女で各都市540～900名

*上海/北京/広州については、「中国パワー生活者」(世帯月収15,000元以上、25～59才の男女2,100名)を追加

*デリー/ムンバイについては、「インドパワー生活者」(SEC A2以上、世帯月収30,000ルピー以上、25～59才の男女1,200名)を追加

サンプルは、世帯収入によってスクリーニングされた各都市の中上位収入層(都市人口の50～90%程度)が対象

調査時期: 2011年5月下旬～8月上旬

調査方法: 訪問面接(香港・台北・韓国以外のアジア、ロシア)
会場での個人面接(香港・台北・韓国)

主要調査項目(※一部の項目はアジア・中国のみ):

<デモグラフィック / ライフスタイル>

- デモグラフィック ●ライフスタイル ●環境意識 ●カントリーイメージ ●メディア/情報接触
- 買い物 ●趣味 ●スポーツ ●耐久財所有 ●カテゴリー知覚 ●旅行 ●住居

<商品・サービスの使用状況>

- 保険 ●クレジットカード ●コンビニエンスストア ●エアライン ●自家用車 ●二輪車 ●AV製品
- 家電製品 ●携帯電話/スマートフォン ●PC/プリンタ ●デジタルカメラ/デジタルビデオカメラ
- 複写機 ●時計 ●TVゲーム ●アルコール/非アルコール飲料 ●食品(インスタント食品、菓子)
- トイレットリー ●化粧品 ●パーソナルケア商品 ●生理用品/紙オムツ

本件に関するお問合せ

博報堂	広報室	大野・山野	Tel:03-6441-6161
博報堂	研究開発局	溝手・高月	Tel:03-6441-6153